最新

唱歌教科書

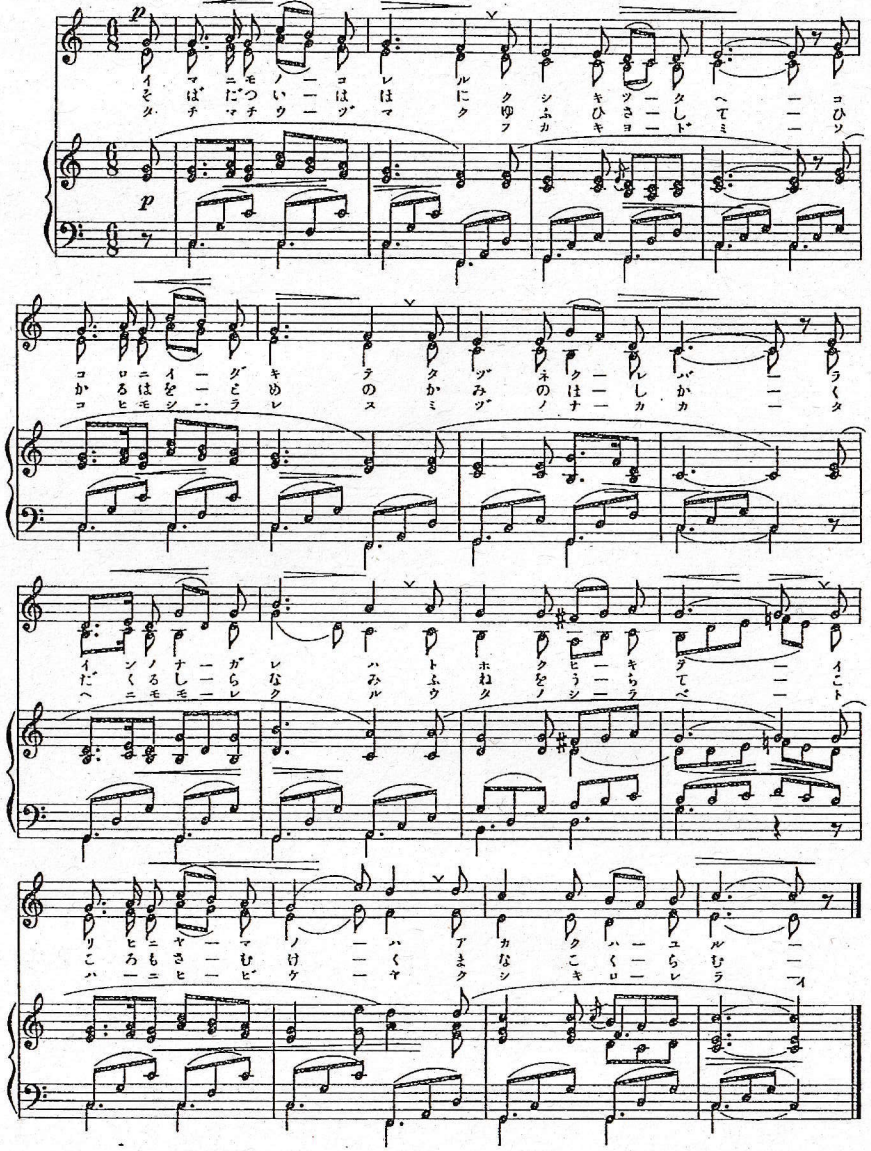
附伴奏

內閣圖書

ローレライ

Massig langsam

(Silcher 原作)

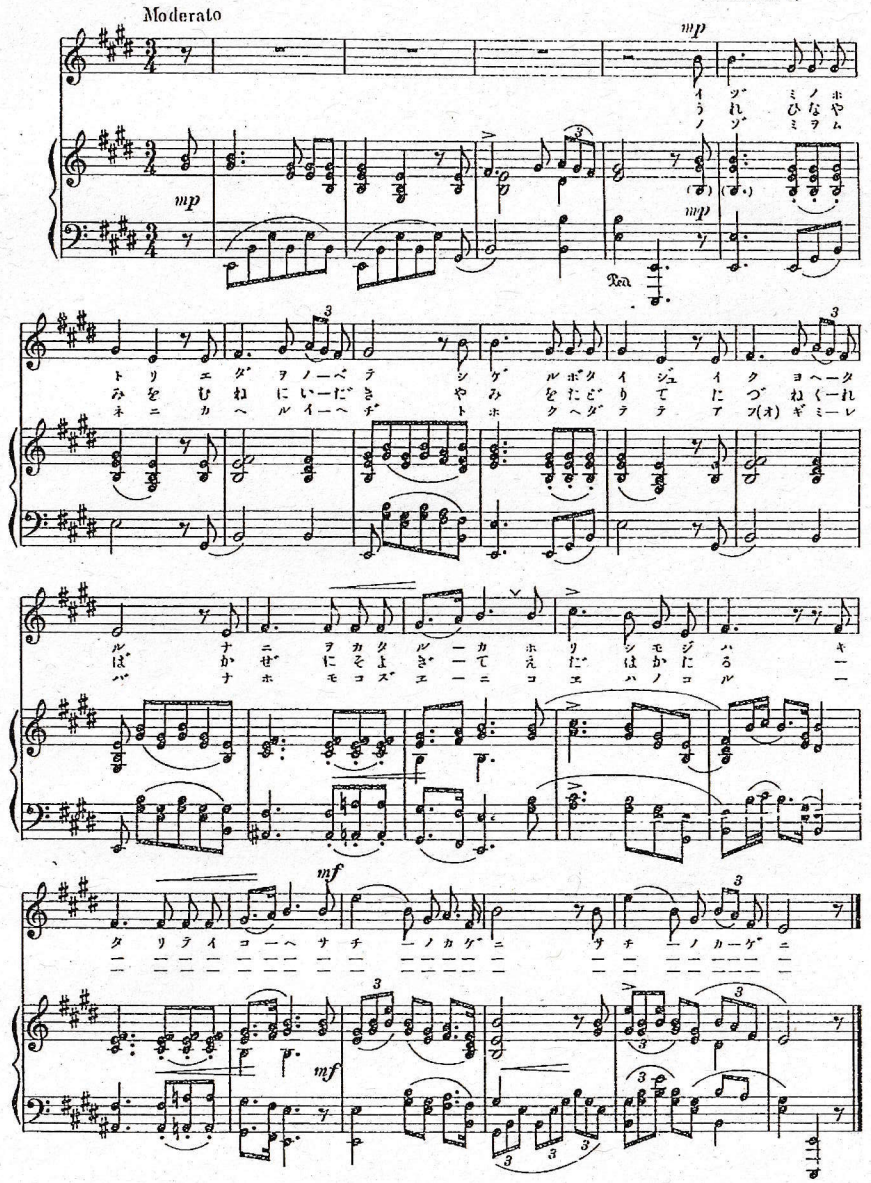


(本曲ハ単音二重唱何レニ使用スルモ可ナリ)

菩提樹

Moderato

(Schubert)



おもしろき調べなり　樂しき夏の夜や
おもしろの夏は來ぬ　樂しめ夏の夜。

○淋しき谷間の白百合

犬童球渓

一、人里離れし谷間の白百合
うき世の汚れは露だにそませず
ほゝゑみ立てるは　優しき乙女か
　清けき香や　妙なる姿や
我等も持たまし　崇高き汝が精神
　あゝ

二、人足絶えたる谷間の白百合
よそほひかざらず此の世を恨みず
俯き立てるは友なき乙女か
　清けき香や　妙なる姿や
我れしも訪はまし　淋しき汝が心情
　あゝ

○ローレライ

一、今にものこれる奇しき傳説
　心に抱きて訪ね來れば
ラインの流れは遠く延きて
　入日に山の端あかく映ゆる。

二、そばだつ巖に夕日さして
　光るは乙女の髪の裝星か
　碎くる白浪船を打ちて
　心も亂けく眼眩む。

三、忽ちうづまく深きよどみ
　底ひも知られぬ水の中か
　妙にもられくる歌の調べ
　永久にひびけや奇しきローレライ。

○菩提樹

犬童球渓

一、泉のほとり枝を伸べて
　茂る菩提樹幾代經たる
何を語るか彫りし文字は。
　『來りて憩へ幸福の蔭に
　　幸福のかげに』

二、憂ひ惱みを胸に抱き
　暗をたどりて訪ね來れば
風にそよぎて枝は語る。
　『來りて憩へ幸福の蔭に
　　幸福のかげに』

三、希望を胸に歸る家路
　遠く隔てゝ顧みれば
なほも梢に聲は殘る。
　『來りて憩へ幸福の蔭に
　　幸福のかげに』

○故郷の山河

犬童球渓

一、麗朗の日かげに花は咲けど
　故郷思へば心わびし
父母兄弟つゝがはなきか
夢にも見ゆるよ故郷の小山
名殘を惜しみて別れし春は
　再び此身にめぐり來る
何れの時にか非成し遂げて
　戀しき山河　馴れにし山河
　我は訪はん。

二、み空の月かげ清くすめど
　故郷思へば眼曇る
姉妹友がきつつがはなきか
　夢にも浮ぶよ故郷の小川
我家を離れて幾年月を
　さすらふ此身に秋は來る
何れの時にか學業を終へて
　馴れにし山河　戀しき山河
　我は訪はん。

○波路の彼方

犬童球渓

一、黄金の色そめし　遙けき海原
　靜かに暮れそめて　夕日は沈むか
　思へばなつかしや　波路の彼方の。

二、心ははこばずや　わが胸しら波
　戀しきふるさとの　母ます磯邊に
　思へばなつかしや　波路の彼方の。

○樂しき農夫

犬童球渓

一、親子兄弟姉妹寄りて。
　しなへる小稻を刈りぞ急げる
見よや雀も小田に群れつつ
　豐けき秋を喜びをどる
　嬉し農夫　樂し農夫。

二、つゞく日和に笑顔を見せて
　干したる小稻を扱ぎぞ急げる
聞けや百舌鳥森に群れつゝ
　豐けき秋をよろこびうたふ
　嬉し農夫　樂し農夫。

○秋の古城

山崎紫泉

一、松の梢を　訪ふ風に
　昔を偲ぶ　荒城の
草むらがくれ　蟲すだく
　チンチロリリリ　チンチロリ。

二、露と消えにし壯夫の
　み靈に捧げし百千草
優しき貞操の花蔭に
　チンチロリリリ　チンチロリ。

○秋のかなしみ

一、野山は　時雨て　ましか　悲しく
秋野の　白露　あはれ　ぬれり
二、さびしき　さびしき　小夜の　雁が音
思ひは　消ぬべく　吾は　思ほゆ。

昭和三年四月十日印刷
昭和三年四月十三日發行

定價金壹圓參拾錢

編纂者　若狹萬次郎

東京市小石川區八千代町四十二番地
發行兼印刷者　若狹萬次郎

東京市小石川區八千代町四十二番地
發行所　交響社出版部

不許複製